

<事例研究>

“江戸前アユ” でまちづくり
—世田谷区多摩川沿川の観光・交流まちづくりを考える—

Community planning by "EDOMAE AYU"
— Consideration of communication and community planning along Setagaya Ward' s Tamagawa River —

高 歓
Huan Gao

井澤 和貴
Kazuki Izawa

佐々木 隆人
Takato Sasaki

嶋村 豊一
Toyokazu Shimamura

庄司 俊夫
Toshio Shoji

裴 倩
Sei Hai

中村 幸子
Yukiko Nakamura

上山 肇
Hajime Kamiyama

法政大学地域研究センター

『地域イノベーション』No.11（2019年3月）抜刷

“江戸前アユ”でまちづくり

—世田谷区多摩川沿川の観光・交流まちづくりを考える—

法政大学大学院政策創造研究科 高 歡 井澤 和貴 佐々木 隆人 嶋村 豊一
庄司 俊夫 裴 倩 中村 幸子

法政大学大学院政策創造研究科教授 上山 肇

要旨

近年、全国各地で「観光まちづくり」が盛んに行われている。世田谷区は観光資源が多く、現在観光まち歩きコースが29コースあるが、多摩川沿いの観光まち歩きコースは現在まだ存在しない。また、多摩川に遡上するアユの姿が多く見られるようになったが、地元の世田谷区民は食べたことがなく、アユの存在への認識も低い。

本研究は「大学生観光まちづくりコンテスト」の参加を契機に、世田谷区二子玉川駅周辺で現地調査をし、世田谷区役所でヒアリング調査をした上で、二子玉川駅周

辺の回遊性を作り出すため、以下の政策を提言した。

1)「アユ釣り教室」の開催 2)「自然教室」の開催 3) “江戸前アユ”を使用した特産物の販売 4) 宣伝方法

以上の四つの政策を実施することにより、第一次産業の活性化や新たな地域の収入源の創出、回遊性の向上、地域住民の地域への関心の高まりなどの効果が出ると思われる。

キーワード：江戸前アユ、観光まちづくり、多摩川、二子玉川駅

Community planning by "EDOMAE AYU"

— Consideration of communication and community planning along Setagaya Ward's Tamagawa River —

Hosei Graduate School of Regional Policy Design

Huan Gao, Kazuki Izawa, Takato Sasaki,

Toyokazu Shimamura, Toshio Shoji,

Sei Hai, Yukiko Nakamura

Hosei Graduate School of Regional Policy Design, Prof.

Hajime Kamiyama

Abstract

"Tourism Community Planning" is being actively carried out all over Japan in recent years. There are tourism resources in Setagaya Ward. Though there are 29 tourism walking courses in Setagaya Ward now, the one along Tamagawa River does not exist. In addition, although AYU (sweet fish), which is delicacies for many Japanese, has increased tremendously in Tamagawa River in recent years, most of the local Setagaya citizens do not know the existence of AYU. By participating in "College Student Tourism Community Planning Contest", we conducted field survey around Futakotamagawa Station and hearing survey at the Setagaya Ward Office. In order to create more crowd turnout and communication around

the Futakotamagawa Station, we recommended following activities.

1) Holding "AYU Fishing Class" 2) Holding "Nature Programs " 3) Selling special products using "EDOMAE AYU"(Tokyo grown sweet fish) 4) Advertising method

By implementing the above four activities, we expect positive effects such as revitalization of primary industries, creation of revenue sources for new areas, improvement of communication around the Futakotamagawa Station and between local residents.

Keyword: EDOMAE AYU, Tourism Community Planning, Tamagawa River, Futakotamagawa Station

1. はじめに

観光は地域活性化の手段として高く期待されているが、特に、近年全国各地で「観光まちづくり」が盛んに行われている。従来の観光は観光事業者のものであり、「観光まちづくり」は従来の観光とは違う。「観光まちづくり」を行うには、観光事業者のみでなく、行政や住民、商店街、地域の民間組織等多様な主体が参加し、協働する必要がある。

本研究は「大学生観光まちづくりコンテスト^{注1)}」の「多摩川ステージ」に参加することを契機に、“江戸前アユ”を中心に世田谷区民の間の観光・交流を促進すること、多摩川が親しまれる場所へ変わること、世田谷区二子玉川駅周辺の回遊性を創り出すことを目的としている。

2020年、東京オリンピック開催の際には、国民だけではなく、インバウンド（訪日外国人観光客）も取り込むことを通し、世田谷区民に十分認識されていない“江戸前アユ”を世界にアピールすることができる。

今回、プロジェクトメンバー7人が「大学生観光まちづくりコンテスト」に参加したが、経緯については表1の通りである。

表1 「大学生観光まちづくりコンテスト」の参加の経緯

年月日	内 容
2018.06.14	多摩川ステージエントリー
2018.08.07	多摩川視察及び世田谷区役所訪問
2018.08.12	第一回会議：パワポの作成
2018.08.15	第二回会議：指導教員の指導を受けた
2018.08.21	提出書提出
2018.09.08	第三回会議：ポスターセッションの出場
2018.09.14	ポスターセッション出場チームとして参加し、発表した

出典：筆者作成

2. 研究背景

(1) 世田谷区の観光資源

世田谷区の観光資源は東京オリンピックが開催される馬事公苑、駒沢オリンピック公園、砧公園、等々力溪谷、下北沢商店街、三軒茶屋商店街、世田谷美術館等多くあるが、多摩川と接点を持つ二子玉川地区は、これらの観光資源へのアクセス拠点として歴史と文化、自然環境に恵まれた場所である。また、世田谷区における観光

まち歩きコースは29コースあるが、多摩川沿いの観光まち歩きコースは現在まだない。

(2) 世田谷区のアユ

世田谷区では江戸時代前からアユが存在している。江戸時代には徳川将軍家にも献上され、御用鮎や献上鮎などと呼ばれた特産品として知られている。一時期、工業廃水などによりアユが減少したが、下水道工事完備によりアユが戻ってきた（表2）。

表2 世田谷区のアユの歴史

時代	アユの歴史
平安時代	昔から、多摩川は歌によまれるほどアユのすむ清流と知られていた。
江戸時代	多摩川のアユは将軍に上納されたり、特産品として売られていた。
明治～大正～昭和初期	多摩川沿いには料亭、宿が並び、観光客は屋形船などから鵜飼いの後継を楽しんでいました。たくさんアユが住み、アユの匂いが漂う川であった。
昭和40～50年代	川の周りに人がたくさん住むようになり、多摩川の水がとても汚れてしまい、アユは多摩川から姿を消してしまった。
平成時代	下水道の整備などが進んだことにより、多摩川の水がきれいになり、たくさんアユが多摩川にもどってきた。

出典：川崎市のホームページ 鮎生態調査（2018.8.3 現在）

多摩川アユの遡上調査によると、定置網に入網したアユの数は約53万匹（2018年3月19日～5月28日）で、1年前より6倍以上多いことが分かった²⁾。東京都島しょ農林水産総合センターでは現在、多摩川水系で釣獲されるアユは琵琶湖産をはじめとし、大部分が他県より購入した放流魚である。漁業者・遊漁者からは、東京湾から遡上する天然アユであるため、略称で「江戸前アユ」として表示されている³⁾。

3. 調査概要と結果

(1) 調査概要

本研究では、自治体へのヒアリング調査及び二子玉川公園と兵庫島公園の現地調査を行った。

①ヒアリング調査の概要

調査日程：2018年8月7日

対 象 者：世田谷区玉川総合支所街づくり課街づくり担当者2名

②現地調査の概要

調査日程：2018年8月7日

対 象 者：実地調査のほか、二子玉川公園と兵庫島公

園の通行者5名へのヒアリング

(2) 調査結果

①自治体へのヒアリング調査結果

世田谷区玉川総合支所街づくり課街づくり担当者にヒアリング調査をした。担当者の話から、京浜河川センターの決まりで堤防より中には固定の設置物はできないことや線路を挟んで玉川高島屋周辺と二子玉川公園周辺がつながりがないので回遊させたいこと、多摩川でのイベントは川崎市との綱引きを昨年初めて行ったこと、世田谷区民は江戸前アユを食べたことがなく、アユの存在への認識も低いこと、大手百貨店で多摩川のアユの加工品が売られたことがあること、江戸前アユが世田谷区の観光資源として捉えていないことなどがわかった。

②現地調査結果（利用者へのヒアリング）

二子玉川公園と兵庫島公園に行き、実地調査及び通行者5人にヒアリングを行った。その結果、次の4点がわかった。

①普段は多摩川沿線を散歩している人が多い（特に土日はより多くの人が見受けられる）

②1時間に1回委託を受けてゴミ拾いと見回りしている人が兵庫島にいる

③兵庫島公園は気軽に河川に降りられ、イベントができる広場がある

④二子玉川公園は草があって気軽に河川に降りられない（野鳥の保護もあり）が、イベントができる広場がある

4. 政策提言と想定される経済効果

(1) 政策提言

政策提言①「アユ釣り教室」の開催（例：「釣って、食べて、江戸前アユを知ろう」）

プロの釣り師によるアユ釣り教室を野川（多摩川より野川のほうの流れが緩く、釣りやすい）にて行う。釣り師及び全てのスタッフは江戸の衣装で、江戸の雰囲気盛り上げる。アユを放流して釣り堀を兵庫島公園ひょうたん池にて行う。釣ったアユは、その場で塩焼きにする。参加費は1,000円程度とする。

また、ひょうたん池で調理できない可能性もあるため、二子玉川公園における稚アユの天ぷら屋台で多摩川のアユを調理し一皿300円で販売する。そうすることで兵庫島公園と二子玉川公園の回遊性を向上させることができる。二つの公園の回遊性をもっと増すためにスタンプラリーを実施することも合わせて提案したい。

二子玉川公園では、仮設プールを設置し、子どもにアユと触れ合う機会を提供する。子どもにもっと楽しん

でもらうために、今回のプロジェクトでは「エド君」と「アユちゃん」という“ゆるキャラ”も制作した（写真1）。



写真1 ゆるキャラ

出典：プロジェクトメンバー作成

政策提言②「自然教室」の開催

地元の大学・企業・NPOと“協働”し、多摩川環境向上のため、二子玉川ライズで場所を借りて、「自然教室」を定期的に開催する。過去の実施例として、東京都市大学夢キャンパスにおいて二子玉川ライズ・オフィス8階で「国際都市景観設計ワークスタジオ」などの講座を行った。

政策提言③“江戸前アユ”を使用した特産物の販売

江戸前アユについて、エド君とアユちゃんがPRするような、江戸前アユの骨せんべいやアユ味カップラーメン



写真2 “江戸前アユ”使用の特産物

出典：プロジェクトメンバー作成



写真3 鮎ラーメン

出典：http://futako-tamagawa.net/detail/index_85.html



写真4 玉川3丁目の鮎ラーメン屋

出典：http://futako-tamagawa.net/detail/index_85.html

ンなどの販売品を開発し、エド君とアユちゃんのイラストを載せる（写真2）。現在、世田谷区玉川3丁目に鮎ラーメンを販売している店がある（写真3、4）。

政策提言④宣伝方法

単体での広報：SNSで宣伝（Twitter、facebook）、釣具店にて宣伝、地域イベントにて出店、LINEスタンプの作成（エド君、アユちゃん）。

民間との協働：東急やスターバックスとのコラボ。

以上の政策提言の実施場所については図1で示されているところを想定している。



図1 政策提言の実施場所

出典：https://www.google.co.jp/maps

http://www.rise.sc/whatsrise/environment/ 地図を基にプロジェクトメンバー加筆

(2) 想定される経済効果

江戸前アユにおける売上と支出の計算を次のように行った。

（例）アユの塩焼き

江戸前アユの仕入値：300円、売値：700円、客数の見込み：300人

（売値 @700 × 300人）－（仕入値 @300 × 300人）＝

120,000円（粗利益）

（例）アユ釣りイベントの開催

参加費：1,000円、参加者の見込み：200人

1,000円 × 200 = 200,000円

これら収益は、運営資金やボランティアの謝礼とする。

5. 「多摩川ステージ」からの審査評価

今回の「多摩川ステージ」に参加し、「ポスターセッション」参加チームに選出され（資料）、2018年9月14日、プロジェクトメンバーは手作りの江戸前アユの人形を展示しながら発表した（写真5）。発表後、審査員から主に次の二つのコメントがあった。

①アユの1点突破は面白いが、アユの生態に少し理解不足の感がある

②プランのスケールが小さい

以上2点のコメントを課題として受け止めながら、今後の活動につなげていきたい。

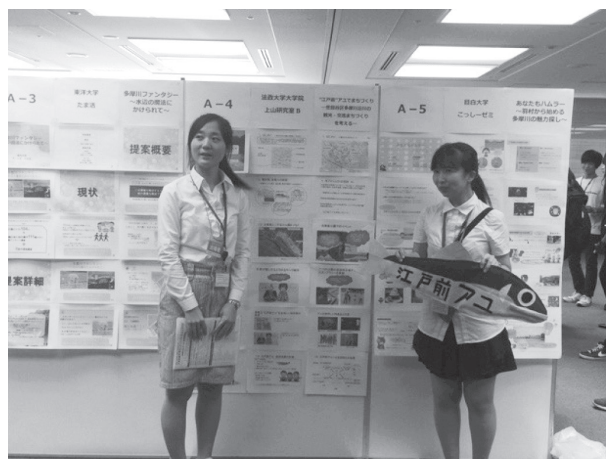


写真5 プロジェクトメンバー発表時の様子

出典：プロジェクトメンバー撮影

6. まとめ

今回の「多摩川ステージ」に参加し、ヒアリング調査と現地調査を行った上で、二子玉川公園と兵庫島公園周辺の回遊性が足りないことなどの課題がわかり、解決するために政策提言を行った。

これらの提言を実施することにより、第一次産業の活性化や、新たな地域の収入源の創出、回遊性の向上、地域住民の地域への関心の高まりなどの効果が出るものと思われる（図3）。

今回「多摩川ステージ」の参加を通し、最後にプロジェクトメンバーからの感想として次のことがポイントとして挙げられた。

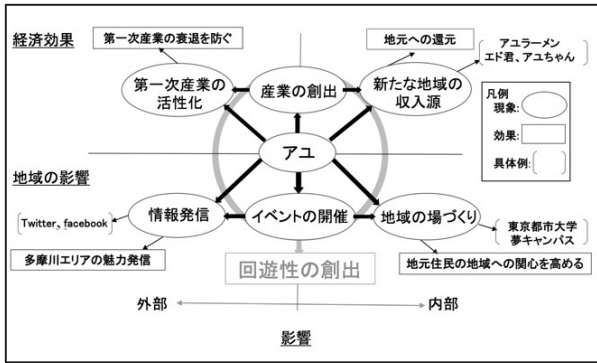


図3 政策提言の効果に関する概念図

出典：プロジェクトメンバー作成

①世田谷区にてヒアリング調査の時、区が重視するまちづくりと、プロジェクトメンバーたちが提案したい内容と手法との一致の難しさ

②二つの公園での現地調査の時、自分の目で確認することの大切さと通行者にヒアリングする経験の必要性

③プロジェクトメンバーの共同作業の時、各メンバーの経験を活かすことによる新たな価値観創出の大切さとより広い視野での調査の必要性

④発表の時、政策提言の熱意や発表内容をわかりやすくするため、江戸前アユの手作り人形を展示するなど工夫の重要性

資料 多摩川ステージへの参加結果

**大学生観光まちづくりコンテスト 2018 多摩川ステージ
予備審査結果通知**

この度は、大学生観光まちづくりコンテスト 2018 へご参加頂き、誠にありがとうございます。
予備審査の結果、貴チームにおかれましては、誠に残念ながら成果発表会への進出は叶いませんでしたが、発表会当日に行われる「ポスターセッション」参加チームに選出されましたのでお知らせ申し上げます。

つきましては、下記日程にて開催致します「ポスターセッション」に、ご参加頂きますようお願い致します。

ポスターセッション参加チーム

青山学院大学/ 地球社会共生学部林ゼミ たまちゃんず	東洋大学/藤橋ゼミ A
青山学院大学/ 地球社会共生学部林ゼミ Wakuwork	フェリス学院大学/GIS 研究会
跡見学園女子大学/磯貝ゼミ	法政大学/保井ゼミ
跡見学園女子大学/村上ゼミ 2 年	法政大学大学院/上山研究室 B
相模女子大学/太田チーム	明治大学/A チーム
産業能率大学/Getting over it	明治大学/カラマングリン
専修大学/おしなりわい	明治大学/川竹ゼミ
東海大学/集い力	目白大学/こっしーゼミ
東京大学/こちらのゾーン	山梨県立産業技術短期大学校/チームこびっと
東洋大学/たま活	立正大学/河原ゼミ A

出典：大学生観光まちづくりコンテスト運営協議会事務局からのメールより

注

注1 「大学生観光まちづくりコンテスト運営協議会」が企画した「観光まちづくりコンテスト」では、全国の大学生を対象にし、現地でのフィールドワークにより、新たな観光まちづくりのアイデアを創造する。普段、大学で学んでいる知識・スキルを実際に活用し、地域に埋もれた資源を掘り起こし、新たなビジネスが地域で生まれ、地域経済が活性化するような観光まちづくりプランが提案されることが期待されている。今年の「観光まちづくりコンテスト」は「茨城ステージ」、「北陸ステージ」、「多摩川ステージ」と「長崎県国境離島ステージ」の4ステージがある。（出典：大学生観光まちづくりコンテスト HP）

参考文献

- 1) 川崎市 HP (2018.8.3)「鮎生態調査」
- 2) タウンニュース HP (2018.6.15)「鮎釣りが解禁」
- 3) 東京都島しょ農林水産総合センター (2018.8.3)「江戸前アユを活用する」